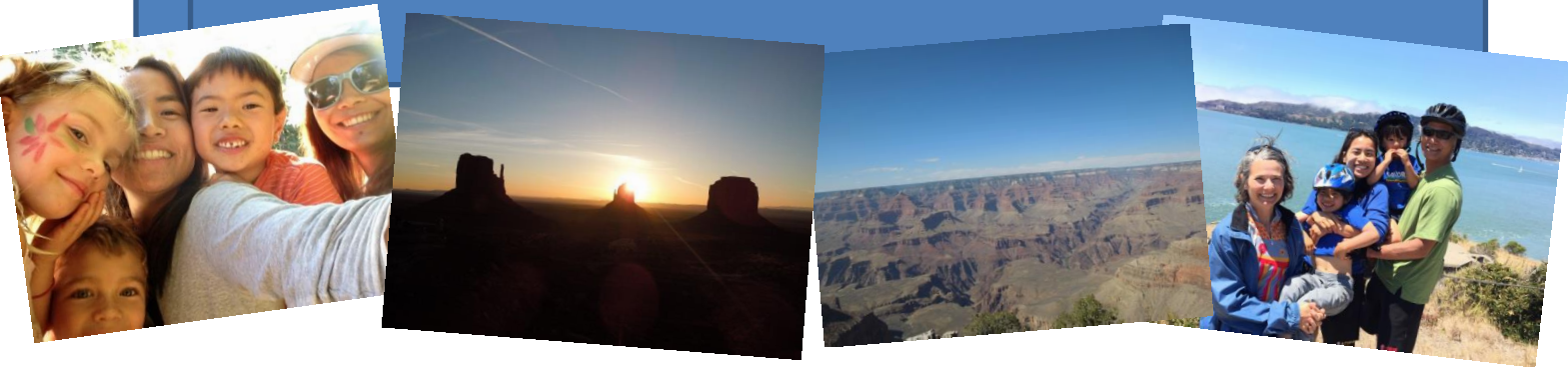


オペア in アメリカ



はじめまして、星 真弥子と申します。2013年8月から2年間のオペア生活を終え帰国しました。オペアとしてアメリカで生活した2年間、そしてオペアになるために準備をした約1年間、合わせて3年間で私が経験したこと、感じたことを少しでも皆さんにお伝えできたらと思います。

1年目はワシントン州シアトルで、6歳の男の子、3歳の女の子、男の子の双子、計3名のお世話をしました。アメリカ人のホストパパ、日本人のホストママです。子どもの年齢、お仕事の内容、車の有無などを話し決めたこのファミリーとは10ヶ月で終了という形になってしまいます。普通11ヶ月以降から1年間終了という形になりますが、アメリカのエージェンシーがリマッチではなく1年間終了という形で扱っていただきました。ホストママはお仕事をしていない方で常に一緒に行動をしていました。子どもたちを公園に連れて行くこと、外に連れて行くことを禁止されていて遊んでいいのは家の中、又は家の庭だけでした。インタビューの際に週末には車を使えるということでしたが実際はありませんでした。このようにインタビューで話したことと、現実のギャップがとても大きくアメリカにきてすぐに、なんか違うかも??と自分の中で思っていました。リマッチという形もありましたが、もしかしたら私をもっと頑張れば状況が変わるかも！それにまだ来たばかりだしリマッチを決めるには早いかな等自分の中で悶々としていましたが、周りのオペア友達と話すことで解消していたんだと思います。

その後も状況は特に変わりませんでした。それでも頑張ろう！せっかく準備してアメリカに来たんだから！と室内でできる遊びを考えたり、どうにかこの状況を楽しい方向に変えようと努力しました。しかしやはりずっとママと一緒にいるのはどこかやりづらく、いつも監視されているような気持ちになり、そして自分は本当に必要なのかな？と考えるようになりました。アメリカに来る前に思っていたオペアとはかけ離れていて、オペアの方たちがやっているブログを見ては自分のオペア生活と比べてしまいました。それでも私にはリマッチする勇気がありませんでした。昔から我慢してしまう性格、そしてどうしても世間体を気にしてしまう私は今帰国という形になったらここまで支えてくれた家族や友達、そしてエージェンシーの方たちにも顔向けできないなど“自分”のオペア生活なのに周りからの反応ばかり気にしてしまっていました。あまりにも溜め込みすぎてしまい、超健康体で小学校から専門卒業まで学校を休んだことのない私が熱を出してしまいました。めったに熱を出さない私は久しぶりの熱に到底動けず、お仕事をお休みさせてほしいとこのことを伝えると、オペアなのに体調管理もできないなんてまるで子どもが1人増えたみたいだよ。と返事が返ってきました。ファミリーを変えようと思ったきっかけだったと思います。

それでも学ぶことは多く、まだ当時 21 歳とオペアとしては若かった私を選んでくれたホストファミリーに感謝しています。私自身至らない点もありました。渡米前、オペアは他の留学と違い“働く”という点がありましたが、どこか自分で他の留学と同じように温かいホストファミリーに囲まれて、色々な経験をしてと思っていましたが、やはり“お金を頂く”以上メインは仕事であること。自分から積極的に行動しなくてはいけないこと。そしてオペア側とホストファミリー側でオペアプログラムに対する考えの違いがあることに気が付きました。ホストファミリーは自分の大切な子どもを預ける以上、オペアは教育のプロ、そして英語ができるのは当たり前だと考えている方が多いことです。そうでない方もいます。例えば子どもに他の言語を習わせたいからオペアの母国語で話してほしい等。そしてオペアはオペアプログラムに参加して英語力を伸ばしたい、と語学留学という風に考えて来る方が多いと感じたことでした。私も 2 年間を通して英語力が伸びたと実感しています。ただオペアプログラムのメインが語学留学ではないことです。私もオペアになる前にオペアの説明会等で説明されたようにやはり“英語”を話せるということはホストファミリーを探す点でも重要になってくるのではないかなと思いました。



2 年目はカリフォルニア州オークランドで、6 歳と 3 歳の男の子です。このホストファミリーと出会うまでには 8 件のホストファミリーの方とインタビューをしました。2 年目になると自分の中でどんなホストファミリーの元で働きたいというより明確な条件ができインタビューを重ねていたんですが、なかなかマッチングまでいかずもう帰国してもいいかなと半ばあきらめていた時、最後にインタビューリクエストがきたホストファミリーでした。このホストファミリーと出会えたことが私のオペア生活をガラッと変えてくれ、より思い出深くそして第 2 の家族ができたと思わせてくれることになります。

両親共働きでとても忙しいこのホストファミリーは、オペアに任せてくれることが多く子育てに関する相談を受けることもありました。子どもの送り迎え、プレイデートを組むこと、週に何度か夕飯を作ること、下の子の寝かしつけ、そして両親ともにアメリカ人なのですが子どもと日本語で話すことがメインのお仕事になります。1 年目と 2 年目のお仕事にギャップがあり最初は戸惑いました。ただ、必要としてくれてると思えることが私の仕事の励みになったんだと思います。忙しいホストペアレンツでしたがいつも私の話を聞いてくれ子どものこと以外でもいつも会話に溢れていました。

仕事以外でもホストファミリーと過ごすことは多く、週末にはよく一緒にバイクライドに出かけました。バイクライドと言っても道路を走るものではなく、なんと山を自転車でするんです。道も悪くアップダウンの激しい山では転ぶことも多く、投げ出したくなることもあります。でも何より最後まで走り切った時の達成感は何物にも代えがたく今ではすっかりバイクライドが大好きになりました。バイクライド以外にも、ランニングや、ホストダディーとはラケットボールという室内テニスのようなものをしていました。いつもホストペアレンツに言われていたことは“Exercise is good for you!”です。常にエクササイズをしているファ

ミリーに影響され私も心がけていると体重もこの1年で7キロ減りました。食べるのが大好きな私は食べているのに痩せられてラッキー！くらいに思っていました。スポーツをすることで気持ちも前向きになり、そしてなによりスポーツをきっかけにホストファミリーとの関係もより良いものになったような気がします。ホストファミリーからは“まやをオペアとして迎え入れられて幸せ”と手紙を頂いたり、最後の日には“まやはもう家族だからいつでも遊びに来ていいんだよ。”と言ってくれました。また年齢的に私がもう一度オペアができることを知ったホストファミリーはまたオペアとして来て欲しいと言ってくれています。こんな風に言ってくれるホストファミリーに出会えたこと、家族が増えたことは私の人生の中でとても大きなことで大切な1年となりました

お仕事の面では来た当初2歳だった下の子はトイレトレーニング中でしたが、私が帰るころにはトレーニングもほぼ完ぺきになり、補助なしの自転車に乗れるようになりました。6歳の長男はいつもお手伝いをしてくれてお料理が得意です。一度私が腰を打ちけがをした時も、“今日は僕が弟の面倒を見るからまやは休んでいていいからね。”と優しく声をかけてくれたこともありました。日本語も日々上手になっていく姿や、出来ることが増えていく2人の成長を近くでみていてオペアとしてとても嬉しく、やりがいを感じました。

この1年でいろいろな事を体験しました。”Nowhere beats California”と言う人がいるようにカリフォルニア州にはたくさんの国立公園やアクティビティーがあります。また気候も1年を通してとても過ごしやすいです。スポーツも盛んな州で2014年には野球のサンフランシスコジャイアンツがワールドチャンピオンに、2015年にはバスケットボールのゴールデンステイトウォリアーズがチャンピオンに輝いていて今とても活気に溢れている場所です。



そしてオペア生活の中で大きかったものは友達の存在です。悩んでいるとき、リマッチを考えた時もやっぱり頼りになるのは同じオペアとして働いている友達です。オペアをしているからこそ分かり合える共通の話題や悩み。シアトルのときからたくさんの方に支えて頂きました。そしてオペアが終わった今でも沢相談に乗ってもらったりこのオペアプログラムを通してできた友達の存在はとても大切です。

このプログラムを通して知り合った友人とバケーションを過ごしました。彼女とは準備期間から一緒にお互いに励ましあってきました。そして絶対に一緒にアメリカ旅行しようねと話をしていて、ハワイで再開することが出来たことはとても嬉しく印象に残っています。他にもこの2年間で沢山の場所に赴きました。フロリダ、ニューヨーク、オレゴン、ネバダ、ウタ、アリゾナ、カリフォルニアの中でも色々などところに行っています。グランドキャニオンなど、グランドサークルと呼ばれるところを周った時はアメリカの自然の大きさに感動しました。



この2年間で学んだことが沢山あります。子どもから学ぶこと、ホストペアレンツから学ぶこと、友達からそしてアメリカという国から学ぶことが沢山ありました。アメリカは自由の国という風によく聞きます。確かに陽気な人も多く、カフェにいと隣の人に話しかけるなんてこともよくあったり、音楽がなると踊りだす人がいたり、おしゃれな格好をしていると、素敵な服ね！あなたにピッタリ！なんて嬉しいことを言ってきてくれる人もいます。アメリカに2年間住んで感じたことは色々な人がいるということ。そしてそれを受け入れているということです。日本人ってどんな顔？と聞かれたら、髪が黒くて、身長が低い人が多くて、細くて、、、と日本人のイメージはすぐ思い浮かぶと思うんですが、逆にアメリカ人って？と聞かれるとえーっと、と考えてしまいます。実際に私のホストダディーが日系アメリカ人だったように、アメリカ人と言ってもイタリア系、中国系とさまざまです。そしてアメリカはそれを普通だと考えていて人と違って当たりまえだ、と普通に考えていることです。色んな人がいて当たり前。例えば勤めていた会社を辞めて大学に行ってもう一度学ぶ人がいたり、楽器を習おうと挑戦するひと、何か人と違うことをするときや、人と少し違う順序になる時どこか臆病になってしまったりすることがあります。ただアメリカはそういう人たちもいるんだという意識があり、受け入れてるという印象がありました。それを自由ととらえる方もいるんだと思います。そして自由ではあるけれど、“なぜそれをしたのか”とみんなしっかり意見があることです。アメリカに来たから変わったというわけではありません。実際私自身、昔からどうしても他人と比べたり、比べられているような気がして自分は劣っていると感じてしまうこともありましたが。ただ昔より自分は自分でいいんだと思えたことと、自分が思っているより周りは気にしていないということです。

準備期間も入れて約3年を振り返ってみるとあっという間ではありましたが、本当に濃い経験でした。語学の面ではもちろん、人としても成長させてくれるオペア生活でした。1年目は我慢してしまうことも多かったんですがその経験があったからこそその2年目だったと思います。全てが私のオペア生活には欠かせないことでした。これからオペアを目指している皆さん、準備中の方やホストファミリーを探されている方、これから経験する全てのことが自分を今よりも成長させてくれる糧になると思います。たくさんの過程を経てオペアになる皆さんがアメリカで沢山のことを吸収しよりよいオペア生活になることを願っています。こんな私ではありますが何かありましたらいつでも相談してください。そして横山さんをはじめ、エイジェンシーの方々、家族、友達、支えてくださった方たちに感謝しています。そしてホストファミリーに出会えたことは私の宝物です。ここまで読んでくださりありがとうございました。

